

B 25 織物の縫合に関する研究(第1報) 布帛材料の組み合わせについて  
 共立女短大 小野幸子 綾田雅子

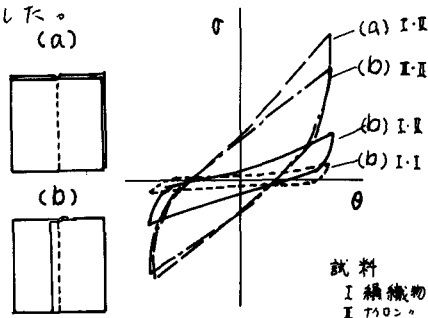
目的 被服構成における布帛の曲面化や、動作に対する適応性、あるいは審美性等には構成線の主たる接合手段としての縫合が影響すると考えられる。なかでも縫合部のせん断的特性は重要で、その認識のもとに我々は、さきに縫目密度、縫目に対する織糸の角度、縫目による布の分割の割合、縫目を折れ線にした場合等条件を変えて実験を行い、その結果を報告してきた。本研究においては、さらに2種の試料布の組み合わせを変化させ、縫合による織物のせん断特性への影響について検討することを目的とした。

方法 せん断特性の異なる織物を数種選び、下記の項目について試作のせん断変形装置を用い、一定のせん断角に変化させた時の荷重等を検討した。

- (a)、2枚の織物を重ね中央に1本の縫目を入れる。
- (b)、左右2枚の織物を重ね縫とする。
- (c)、縫目の位置を移動する。

但し縫製におけるミシン条件、縫目に対する織糸方向を一定とした。

結果 右図のごとく2枚の織物を縫い合わせた場合、その合わせ方により、各々の持つせん断特性とは異なるヒステリシスを示す結果となった。また極端にせん断的特性の異なる材料の組み合わせでは、せん断変形しやすい材料特性が、し難い材料の特性に吸収されてしまうことがわかった。



試料  
 I 絹織物  
 II 絹織物